夕刊

六月三十日發行

定價一ケ月金五拾錢（郵税拾五錢）
廣告料金（磐城圖書館）金六拾錢同（五號活字）
編輯兼發行人　木村卯之吉
印刷人　田村十六
發行所　磐城新聞社
（福島市北一丁目）
（電話四五六番）
（日曜祭日翌日休刊）

童謠集『古雛』卷末記

島田忠夫

□

曩に岩波書店から刊行した『柴木集』以後の作をあつめて『古雛』と名づけた。配列は製作の順を追ふた。山居である。その後、間もなく私は鎌倉極樂寺姥ヶ谷の友の別莊に移つた。松の多い山上の草庵であつて庭先に松雀小雀の來あそぶ聲、松風の音にまじる海鳴り、萱屋根を濡らす時雨の音などを忙しみ乍らひとり暮らして居たのである。

翌年の夏、二人の友と淺間山麓から奥上州の方に遊んで高原地帶のさわやかな空を仰いだ。二人の友も私も、すでに母を喪つてゐて深夜溪流のひびく山間に目ざめ合ふたとき、夜鳥がきよきよと鳴き過ぎる聲を聞いては無常迅速の感と戾しい靜けさに涙した事であつた。

秋には、京都から奈良近郊に遊んだ、鹿かな數日も忘られぬ。嵯峨に富田溪仙畵伯と見ゐ、下加茂に天野貞祐氏、大和郡山に土田耕平氏を訪ねた。法隆寺くも杖を曳いて久しく憧れて居た夢殿の裡をうかゞつた。古寺の築塀や甍を染める秋の日ざしが淡く傾くまで、他かず眺めて私は立ちつくしてゐた。

その年の初冬から、かつて幼少年時代を送つた東北の町に二年餘り歸住して、冬は厳しい寒さと闘つた少年期以後私が東京に列は製作の順を追ふた。鎌倉に、遠く離れてひそか村ではよく、背戸の祠や野の宮に、春の節句ごとに取り出す古びた蟲喰ひ雛を、供物など添へて納めたりする。その鄙びたあはれさに私はいつも心を惹かれるのであつた。

『柴木集』を編んだのは昭和三年春、鎌倉在豊田村の山居であつた。その後、間もなく私は鎌倉極樂寺姥ヶ谷の友の別莊に移つた。松の多い山上の草庵であつて庭先に松雀小雀の來あそぶ聲、松風の音にまじる海鳴り、萱屋根を濡らす時雨の音などを忙しみ乍らひとり暮らして居たのである。

翌年の夏、二人の友と淺間山麓から奥上州の方に遊んで高原地帶のさわやかな空を仰いだ。二人の友も私も、すでに母を喪つてゐて深夜溪流のひびく山間に目ざめ合ふたとき、夜鳥がきよきよと鳴き過ぎる聲を聞いては無常迅速の感と戾しい靜けさに涙した事であつた。

秋には、京都から奈良近郊に遊んだ、鹿かな數日も忘られぬ。嵯峨に富田溪仙畵伯と見ゐ、下加茂に天野貞祐氏、大和郡山に土田耕平氏を訪ねた。法隆寺くも杖を曳いて久しく憧れて居た夢殿の裡をうかゞつた。古寺の築塀や甍を染める秋の日ざしが淡く傾くまで、他かず眺めて私は立ちつくしてゐた。

その年の初冬から、かつて幼少年時代を送つた東北の町に二年餘り歸住して、冬は厳しい寒さと闘つた少年期以後私が東京に列は製作の順を追ふた。鎌倉に、遠く離れてひそか村ではよく、背戸の祠や野の宮に、春の節句ごとに取り出す古びた蟲喰ひ雛を、供物など添へて納めたりする。その鄙びたあはれさに私はいつも心を惹かれるのであつた。

私はいつも心を惹かれるのであつた。その頃、鎌倉に、遠く離れてひそかに眼底に描き浮べつつ愛惜してゐた山川風物は、現實の眼の前には新開の小都市として、ちびたすがたを展じて居るに過ぎなかつた。其處には既に遠い日の懐しき老人たちの昔語りも、また狐狸などを語る長閑な爐邊の話もなかつたのである。

本書の裝幀挿繪は、小川芋錢、森田恒友、富田溪仙の諸畵伯が、特に高作をたまはつてこの種の書に珍らしき典麗なものとして頂いた。以上の三畵伯からは、私的厚誼の上にも常に御高配を添くしてゐる。

本書出版に際しては、東京帝大並に京都帝大の兩文學部に関を添くした。寺田寅彦博士、天野貞祐教授、佐藤孝二博士、吉江喬松博士の御高配によること多い。

古今書院主橋本福松氏は本書の出版を引受られし上体裁その他に、我ままなる

高月會句抄（六月例會）二

木下闇

木下闇に燒く麥藁の煙這ふ　天仙
木下闇電燈光る出入口　閑月
錢あけて憩ふ祠や木下闇　秀峰
下闇の小茶屋に人の午睡かな　良亭
ひそやかに水の音して木下闇　曉美
御堂下る巫女の袴や木下闇　耕影
物凄き蛇の聲きや木下闇　同
さみだるる卵の花かけや木下闇　石水
翠濃き鐘樓の杜や木下闇　同
草霞み水に聲あり木下闇　同

潮聲視靜抄帳（六月集）2

屋根の上に南瓜の葉ある夏の月　金子放光
藤棚の葉うきところ夏の月　一
見えさうに裏の樹に鳴く老鶯や
そよ風に梅雨めきて居る銀杏の樹　井上隅川子
寢る前の灯―明るき梅雨嵐
撫子花さがりとなれる畫の雪
小さなる亀子の窓の蠶屋障子　岡部二葉
麥燒く火燃え上り消え燃えにけり
池の面に花ゆりこぼす鳥かな

かくて僅かに折々の慰樂私の要求をすべて認容されとなつたのは、四季の山にて忝い。かくの如く多くの わけ入つて山遊びをするこ先輩の御厚情によつてこの などでであつた。冬、雪ま書の出版されることを、心 じりの風すさぶ日、とうとより深謝申上げる。私はい うと凍つて流れゆく溪みゞま旅にあつて、この卷末記 の寒い囁きを聞きながら顔を書く。若しまた、故人と を吹き晒されて、幾里となりし恩師島木赤彦先生が く徒歩いたこともあつた。居られしならば、いかにこ の出版をお欣び下されしか

といふ感がわつて、心から泣けるのである。謹記して卷末言となす。

（昭和七年五月關西旅舍にて）

時代警語

○児童は父母の行爲を映照する鏡なり……（スペンサー）

己れの喜怒をよそにして冷靜に常識を以て判じ子女の教育を主眼として叱るべきを叱り而も度々せずして叱るなら大に叱る、然くて始めて叱言の効能があるものである……

日1月7

△始めて官報を發行す（明治一六）△郡役所を廢す（大正一五）△造幣局貴金屬の品位檢學校が生れ、ダンスの先生定依頼開始（昭和四）△官が藝者ガールの人氣の中心吏の日當宿泊料を一割五分減に決定す（同五）△ボスト、グチ兩氏世界早廻り機ニューヨーク歸着、八日十五時間五十一分で一萬五千四百七十哩を翔破し世界一週の大飛行完成（同六）

社會の今日

○

いとせめて手向くる酒の一しづく、苔の下にもとほれとぞ思ふ

佐々木信綱

都會の裏 上

根方三郎

ロマンチックハンダース何處へ行く

戰爭も一段落ついた。今までその方に向けられた國民の關心は何處へむけて散つて行くだらう。まだエロに向けられた方がよい、戰爭の弛緩狀態と經濟逼迫から生れる××意識を怖れてゐる識者達はいふ。

さてそのエロだが、これとて時代の變遷につれてといふよりも、やはり流行を追つて年ごとに變つて行く去年までは玉の井（キングポイント）と、ハマのチャブヤがこの方面の双璧であつた。中にもハマのホンモクはこの方面のメッカであつた。流行はハマから――といふ合言葉に從つてエロ郷は悉くこのアラモードの模倣にうきみをやつしてきたのが、この近年の斯界の情勢ではある。

酒の店で一杯ひつかけホールでジャズつて、圓たくを飛ばしてハマのホテルに落ちつく――これがエロ道の騎士の常法であつた。一にもダンス、二にもダンス、まさかダンスが女子の××の血行をたすけ……なぞといふ二重の効果(?)をねらつたのでもあるまいが、ウルトラ・ナイトとダンスは離すことの出來ないものになつてしまつた。

そこで第一に恐慌をきたしたのは、藝者ガールであるる。大時代な日本舞踊ではとてもウルトラ・ナイトの

いとせめて手向くる酒の一しづく、苔の下にもとほれとぞ思ふ

佐々木信綱

都會の裏 上

根方三郎

ロマンチックハンダース何處へ行く

戰爭も一段落ついた。今までその方に向けられた國民の關心は何處へむけて散つて行くだらう。まだエロに向けられた方がよい、戰爭の弛緩狀態と經濟逼迫から生れる××意識を怖れてゐる識者達はいふ。

さてそのエロだが、これとて時代の變遷につれてといふよりも、やはり流行を追つて年ごとに變つて行く去年までは玉の井（キングポイント）と、ハマのチャブヤがこの方面の双璧であつた。中にもハマのホンモクはこの方面のメッカであつた。流行はハマから――といふ合言葉に從つてエロ郷は悉くこのアラモードの模倣にうきみをやつしてきたのが、この近年の斯界の情勢ではある。

酒の店で一杯ひつかけホールでジャズつて、圓たくを飛ばしてハマのホテルに落ちつく――これがエロ道の騎士の常法であつた。一にもダンス、二にもダンス、まさかダンスが女子の××の血行をたすけ……なぞといふ二重の効果(?)をねらつたのでもあるまいが、ウルトラ・ナイトとダンスは離すことの出來ないものになつてしまつた。

そこで第一に恐慌をきたしたのは、藝者ガールであるる。大時代な日本舞踊ではとてもウルトラ・ナイトの

談合相濟む迄の間一切立寄ちやわい、先生、斯様な愚を見せて寒げに打ち悄れる

△正午A　時報　ニュース　氣象

△後〇、〇五A　講演實説（梅川忠兵衛）一龍齊貞山

△二、〇〇A　婦人講座（貴金屬裝身具に就て）造幣局東京出張所長柴田武

△三、四〇A　氣象

△四、〇〇　ニュース

△六、〇〇A　（子供の時間）童謡劇（お伽繪本）長谷山雛菊音樂會

△六、二〇A　コドモの新聞　樫葉勇

△六、二〇A　カレント、トピックス　ハロルド、バーマー

△六、三〇A　英語講座（初等科）岡倉由三郎

△七、〇〇A　ニュース　氣象　生繭相場

△七、三〇A　講演（教育と映畵）山岸光宣

△八、〇〇A　清元（色彩間苅豆）清元延壽太夫

△八、四五A　獨唱と管絃樂　日本交響樂團　獨唱…藤原義江（新交響樂團より中繼）

△九、三〇A　時報　ニュース　氣象　生繭相場

△九、〇〇A　氣象

△一〇、三〇　醫學講座（外科的疾患の應急處置法に就て）仙臺市立病院副院長醫學博士田上實

ラヂオ

……一日…（金曜）…

仙臺　JOHK

△前六、〇〇A　ラヂオ體操

△九、〇〇A　氣象

△九、一〇　料理献立（豚肉のカレー粉燒）朝倉長吉

日用品値段

△一〇、三〇　醫學講座（外科的疾患の應急處置法に就て）仙臺市立病院副院長醫學博士田上實

△正午A　時報　ニュース　氣象

△後〇、〇五A　講演實説（梅川忠兵衛）一龍齊貞山

△二、〇〇A　婦人講座（貴金屬裝身具に就て）造幣局東京出張所長柴田武

△三、四〇A　氣象

△四、〇〇　ニュース

△六、〇〇A　（子供の時間）童謡劇（お伽繪本）長谷山雛菊音樂會

△六、二〇A　コドモの新聞　樫葉勇

△六、二〇A　カレント、トピックス　ハロルド、バーマー

△六、三〇A　英語講座（初等科）岡倉由三郎

△七、〇〇A　ニュース　氣象　生繭相場

△七、三〇A　講演（教育と映畵）山岸光宣

△八、〇〇A　清元（色彩間苅豆）清元延壽太夫

△八、四五A　獨唱と管絃樂　日本交響樂團　獨唱…藤原義江（新交響樂團より中繼）

△九、三〇A　時報　ニュース　氣象　生繭相場

講談

お蘭陀お蝶

(69)

渡邊默禪作

布施長春畵

『先刻庄司殿を以て一同のエッさりとは膽の太い毒婦

かはした其の方ではあるが天下の爲めには換へられぬ不憫ながら』

と、刀を取つて片膝立て

『一命申し受くる、ソレ庭へ引立てい』

『えッ？あのお手討ちにッ？』

お柳はぎょつとした。

×

庭には雪があつた、珊瑚三尺、飛石も下草も濡鶯形の燈籠も、くねる赤松の葉の背もひとしく白の被衣にうもれて、此の寂寞の夜を塵もとゞめず玲瓏たる光に包んでゐた。

雪の上に投げつけた荒莚一枚、それに押据へられたお柳は、裾模様のかさねにくつきりと水際立つた輪廓

それ故私はどの様なお遊戯

かと見たい一心から、失禮

と知りつつ暗見いたします

と突然後からお摑まへ遊ば

しまして

『默り居らう！』

平山は慌てゝ一喝した

『おのれ虚僞も程にせい、

ば、ば、莫迦な……徴祿の

御家人や、木刀腰にぶら下

（？）カフエーの女給の、チ

ップとらん哉の急性な商略

は、押し賣り主義のカフエ

一經營策と相まつて、金欲

病のウルトラ・ナイトより

指彈さるるところとなつた

博奕や錢打の手なぐさみを

して好いものか、たわけた

事を申すな、察する所申開

くに口實のなき苦し紛れ己

れの罪を人に塗りつけて取

押へられた怨を霽らす了見

度量衡。計量器。
吸入用酸素。
酸素吸入器。
關内藥局
電話四〇番

産科
婦人科
花柳病科
井阪醫院
平町田町（元合津醫院跡）
電話五五九番
午前宅診
午後往診
入院應需

御子様用
防水マント
御子様方の御通學に是非必要な防水マントを種々取揃へました。
◇ゴム引……0.85より
◇中ゴム……1.3より
◇同（女兒用）…1.40より
通學服も種々取揃へて御座います。
おかや洋服店　平三　電203

タクシーの御用命は
是非…尼子タクシーへ
親切安全第一を主義と致して居ります
電六四〇番
主任澤資之（正吉）

肺。肋膜。心臓全治の早道
マムシ藥益々好評
◎マムシ藥發賣以來服用者は約貳百人食慾の出る事、体力の増す事、セキの止る事、熱の下る事、動悸の靜る事、等一服毎に着々奏効し驚嘆と感謝の聲愈々高くなりました、迷はず疑はず論より證據一度御体驗下さい。
◎精力増進不可思議なる『マムシ膽』強烈なる胃痙攣も此の膽を二個一時に服用する時は二三分にて治癒する程の驚く可き卓効があります、マムシ粉と併用すれば一層特効があります。
◇健康体の人も常にマムシ藥を服用すれば心身爽快体力増進す（但し健康体の獨身者は遠慮あられ度し）
効能（心臓、胃腸、性力欠乏、食慾不進、神經衰弱）
試説明書藥無代進呈（東京市淺草田島町九二川上蛇類研究所）
平町五丁目二三（金光堂時計店裏）
代理販賣店　井内

アンキローム……1圓
（十二指腸虫病驅除必滅錠劑）
條滅（絶食の必要なし）……1圓30錢
（さなだむしおろし）
平町二丁目
堀藥局
電326番
平簡易保險相談所指定藥局

夜診
内科
十二指腸虫
專門
内科部
外科部
泌尿科
婦人病
産婦人病
性病
胃腸病
專門
松村外科醫院
（平南町電話一〇七番）
療養室

内臓外科一般（入院隨意）
外科
花柳病科
平町六丁目（橋際）
木村外科醫院
電話三〇九

繭の收入を當て込み
縣稅滯納の大整理斷行
疲憊の農村に思ひ切つた荒療治

縣稅務平出張所では過般第一回の滯納整理を行つたが更に來月十日頃から農村の繭賣金を當込んで息もつかせず第二回の大整理を行ふ事となり目下係員を增員して汗だくの整理準備を急いで居るが繭價安で生產費にも當らぬと悲鳴を擧げて居る農村に對し此種の荒療治が果して如何なる程度に奏功するか豫斷をゆるさぬものがある

漸く本格的に入る
小名濱築港工事
今秋以後の活氣豫想

總工費三百五十萬圓の巨費を要する小名濱築港工事は今年度に三十五萬圓を投じ目下內務省樗木技師監督の下に工事に全力を傾到して居るが現在の工事個所は長さ百十間に亘る防波堤基礎捨石約二千五百坪中約百間竣功。防波堤体及岸壁に長さ約十間重量約千百噸の鐵筋コンクリートの函塊を使用し之にコンクリートを充塡豫定。

捕鯨會社東南の海濱地を工事準備地に充てセメント倉庫、器具倉庫、油倉庫、人夫休憩所、工事監督詰所等を建設。函塊製造及函塊進水臺工事進行中は順調に進捗し今夏中竣功の見込で之等は何れも工事が愈々本格的に入り十月頃には一段と活氣を呈する豫定である。

附近の地價騰る
煽らるる成金熱

築港及平小鐵道上水道敷設と矢繼早に大工事を目論みない有樣で殊に平小鐵道當て込みの土地買收をなす仲買人が多數入り込んで價格の吊り上げを行つて居る爲差なく町內住宅地反當り二百圓乃至四百五十圓郊外田畑百圓乃至百五十圓を下らず將來の大商港を目標に漸進しつつある小名濱町の土地賣買價格は不況に因る諸物價低落に反比例して大正七、八年の最好況期と大に小地主も賣り漁り愈々土地成金熱を煽り立てゝ居る

夏物の外荷動き緩漫
一般購買力が不活發で
平町商業界最近の沈靜

平町役場では二十五日現在で町內三十餘種の物價調査を行つたが小賣は去る一月頃に比し一割五六分卸賣は二割餘の何れも下落を見且つ一般購買力の減退から仕入品は一部夏物を除いた外はその動き極めて緩漫なる爲手持品が多く何れも弱り切つて居る處へ僅に望を繋いた收繭後の景況も價格が漸次尻上りとなつたとは謂へ昨今既に大部分の養蠶家は賣り盡したあとで今後之亦大なる期待も持てなく平町商業界は一般に沈滯してゐる

郡体育協會
事業豫算を協議

石城郡体育協會支部では來二日役員會を開き事業計畫豫算、會員募集に就て打合せをなすが新役員次の如し支部長會我直治、幹事折笠鬼子太郎、西山直三郎仲村辰四郎、菊地正一、鈴木佐四郎、萩生田智雄折笠博茂、櫻井榮治、小林青海、佐藤信義、井上佳都美、小林武志、新家芳美、田子泰作、鈴木愛三、山內亀代司、猪狩貞夫、小野平七郎、書記坂內伊貞

質屋さんも
悲鳴をあげる

大正九年の好況時代には平町に約二十軒からの質屋がノレンを下げてゐたが打續く不況から經營困難となり其の後廢業續出し現在では僅かに五軒となつたがこの五軒も最近は得意の勞働者達が近村の田植麥刈繭取り等に雇はれて若干懷具合が潤された關係からノレンを潛る者激減したので昨今は頗る閑散で悲鳴をあげてゐる

。。。